

統合国際深海掘削計画 (IODP) 会議報告書

提出年月日： 平成 18年 9月 7日

(ふりがな) やまもと ひろゆき

氏名： 山本 啓之

所属 (職名)：海洋研究開発機構 (グループリーダー)

会議名	IODP Science Planning Committee (SPC)
会議期間	2006年8月28日～31日
用務地 (国・都市)	ノルウェー、ベルゲン
目的	第8回統合国際深海掘削計画科学計画委員会 (IODP SPC) による掘削計画の審議
会議内容及び報告事項	<p>日本側 SPC 委員：James J. Mori、山本啓之、北里洋、野村律夫、丸茂克美、佐藤博明、益田晴恵 (代理出席：山崎俊嗣)</p> <p>1. SASおよびIOからの報告： 今回、SPPOCが改組されSASECとなることが報告された。また前回より継続してきたMission Implementation planについて議長より最新の内容が報告された。これに対して、SPCメンバーより修正点が指摘されたが、大きな変更はなく承認された。このMissionによる掘削調査の採用によりCDPでの提案募集は廃止するべきとの意見が多数をしめた。今回のパネル報告のうち、EDPから当面において優先するべき技術開発の項目については審議して優先項目を承認した。</p> <p>2. 掘削船の運航計画： 米国の掘削船がIODPに復帰する時期が2007年11月に変更となる。これよりFY2007/2008のSODV運航計画が修正された。またCanterbury Basinでの掘削計画はEPSPからの勧告を受けて再度の事前調査を実施するため掘削が延期になる。これにより同時期に予定されていたWilkesでの掘削調査の実施が審議された。Canterbury Basinと同様に延期するのか、切り離して変更なしで実施するかは、意見が分かれた。FY2009/2010の運航計画案を審議し、SODVはおもに太平洋の掘削を行う案を承認した。</p> <p>3. 掘削提案の審議 SSEP より送られてきた Mariana 海域での COKE 設置の提案 693 APL を審査した。APL なのでランキングは実施せず、条件付きにて採用を決めた。</p> <p>4. 掘削調査の報告と評価 掘削調査 (Expedition 302、Expedition 308、Expeditions 309/312、Expedition 311) の概要報告を受けて、実施内容と結果について担当委員が評価をした。</p> <p>5. DPG の設置 Hot spot geodynamics をテーマとした Detailed Planning Group (DPG) が Bob Duncan を議長として設置することを承認した。</p> <p>6. Workshop の承認 コアによる環境解析に関連するワークショップ ‘Ultrahigh-resolution paleoclimate’ と ‘Extreme climates and abrupt climate change during Cretaceous and Paleocene’ の開催を承認した。</p> <p>7. Deep-Sea Biology Symposium の報告 シンポジウムに参加した北里委員より、深海生態系の保護を目的とした MPA (Marine protected Areas) の論議の状況について報告を受けた。この件に関しては今後も正確な情報収集が必要であると認識されている。</p>